

羅針盤

児童生徒の変化に気付き、適切な支援をするために

夏休みが終わり、いよいよ2学期が始まります。久しぶりの学校を楽しみにしている子どもたちがいる一方、学校が始まることに不安を感じる子どもたちもいるのではないのでしょうか。

夏休み明け、子どもはどんなことに不安を感じるのでしょうか。

例えば

- ・生活リズムが不規則になってしまっていて、なかなか生活リズムが取り戻せないなど生活における不安
- ・友達や先生との関係がうまくいきそうにないなど人間関係の不安
- ・課題が終わっていない、勉強がわからないなど学習への不安
- ・いじめられるのではないかと、クラスに馴染めそうにないなど集団生活への不安

といった様々な不安を抱えていると思われます。そうした子どもの不安や悩みに早く気付くことが不登校やいじめの未然防止・早期発見・早期対応につながります。



児童生徒の心の変化に気付く

言葉にならない声への気付き



子どもの様子をよく見ていきましょう。ちょっとした子どもとのやりとりを通して子どもの変化に気付くことも少なくありません。表面に現れた行動の背景にある心の動きを敏感にとらえ、児童生徒の話を聴いたり、家庭での様子を保護者から聴いたりして対応していきましょう。

気になる児童生徒の不安な気持ちに寄り添い、組織で対応する

対応のポイント!

- ・「今までと様子が違う、おかしいな。」と感じたら、すぐに声をかけ、しっかり話を聴く。
- ・子どもが先生と話しやすい雰囲気を作り、いつでも話ができる環境を整える。
- ・子どもの気持ちに寄り添い、不安を共有し、「これから具体的にどうしたらいいか」を一緒に考える。
- ・教育相談週間の取組やアンケートを実施する。
- ・子どもや学級の気になる変化は、全教職員で情報共有し、支援策について共通理解を図り、組織で対応する。
- ・問題行動や不登校傾向等の「気になる児童生徒」だけでなく、「問題なく学校生活を送っているように見える児童生徒」についても情報共有し、支援策について、共通理解を図る。



上記のようなことに注意して、夏休み明けの不安や悩みを抱える子どもに寄り添い、組織で対応していきましょう。